

授業科目	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	田中 千世子
講義のねらいと概要	生涯学習の考え方を実感的に理解することが第一のねらいである。そのために自分自身の学習履歴を見つめ直し、そこから将来の学習予想図を作り上げる。また、生涯学習は自分だけのものではなく他者もまた生涯学習の主体であることを理解していく。そのことで社会にとっての生涯学習の必要が鮮明に見えてくる筈である。				
授業計画	第1週	生涯学習と自分の位置づけについて考える。			
	第2週	生涯学習と社会について考える。			
	第3週	女性のさまざまなキャリアについて。			
	第4週	生涯学習の模範となるゲストを迎え、お話を聞く。			
	第5週	ゲストのお話についてレポートを書く。			
	第6週	個々の生涯学習プランを考える。			
	第7週	個々の生涯学習プランの発表とアドバイス			
	第8週	ヨーロッパにおける生涯学習(1)			
	第9週	ヨーロッパにおける生涯学習(2)			
	第10週	アメリカにおける生涯学習(1)			
	第11週	アメリカにおける生涯学習(2)			
	第12週	各自の生涯学習プランの見直し			
	第13週	見直した生涯学習プランの発表			
	第14週	生涯学習サービスについて			
	第15週	定期試験とまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	家族・知人・友人のなかに生涯学習の手本となる人が必ずいる筈である。その人の努力を理解し、自分自身のことを考える。また、講義中に紹介する生涯学習の実践者についても同様である。自分の将来を学習と結びつけて予想するシュミレーションを活発にしていくことも重要である。世界の生涯学習の事例を学び、自己の生涯学習プランを磨きあげる。				
成績評価の 方 法	筆記試験(50%)、レポート(20%)、発表(20%)、授業態度(10%)				
教 科 書	生活環境主義でいこう！(嘉田由紀子 岩波ジュニア新書)				
参 考 文 献					

授業科目	図 書 館 概 論	単位数	2	担当教員	矢 代 寿 寛
講義のねらいと概要	<p>図書館の機能や社会における役割について講じます。図書館の歴史と現状について概観し、図書館の種類とそれぞれの利用者ニーズ、図書館員の役割、類縁機関との関係、今後の課題と展望について解説します。これまで利用者として抱いていた図書館と図書館員に対するイメージを刷新し、職場としての図書館、社会の中の図書館という観点を獲得することを目指します。</p>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	図書館の現状			
	第3週	図書館の社会的意義			
	第4週	図書館と知的自由			
	第5週	図書館の歴史1：世界の図書館			
	第6週	図書館の歴史2：日本の図書館			
	第7週	図書館の種類1：公共図書館			
	第8週	図書館の種類2：学校図書館			
	第9週	図書館の種類3：大学図書館			
	第10週	図書館の種類4：専門図書館			
	第11週	図書館の種類5：国立図書館			
	第12週	図書館員の役割1：概要			
	第13週	図書館員の役割2：種類別			
	第14週	図書館の類縁機関と利害関係者			
	第15週	図書館の今後とまとめ、試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>国立国会図書館のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』を日常的に閲覧することが望ましい。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（100％）				
教 科 書	なし。適宜資料を配布する。				
参 考 文 献	『図書館概論』（塩見昇編著、日本図書館協会、2012年）				

授業科目	図書館制度・経営論	単位数	2	担当教員	西巻悦子
講義のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が組織を効率的，効果的に運用し使命を達成する過程を理解し，図書館経営に興味と関心が持てるようにする。 ・図書館経営の意義，自治体行政のしくみと図書館業務，館長及び職員の職務と研修，サービス計画と評価，他図書館や関係機関との連携・協力等，図書館経営と経営の課題について解説する。 				
授業計画	第1週	図書館の経営1：『ディスカバー図書館2004』の提言とその後。			
	第2週	図書館の経営1：経営資源，業務，経営のサイクル			
	第3週	図書館の経営2：経営マネジメント			
	第4週	図書館サービスの展開1：サービスの計画とマーケティング			
	第5週	図書館サービスの展開2：図書館と法（日本国憲法，図書館法，著作権法等）ビデオ「悟空の著作権入門」			
	第6週	図書館サービスの展開3：町おこしと図書館（事例紹介）			
	第7週	図書館資源の管理1：資料と施設			
	第8週	図書館資源の管理2：（人的資源）：ビデオ「ある図書館長の一日」をもとに討議			
	第9週	図書館資源の管理3：（人的資源）：図書館員の養成と育成			
	第10週	図書館資源の管理4：（人的資源）：市民参加のボランティア（事例紹介）			
	第11週	図書館の財務管理1：財務計画（講義）			
	第12週	図書館の財務管理2：財務計画（演習）			
	第13週	新しい図書館経営1：電子図書館と情報ビデオ「情報の達人」			
	第14週	新しい図書館経営2：障害者サービスと多文化サービス			
	第15週	前半：これからの図書館の展望：『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』について 後半：試験			
指導方法 履修上の 注意	主に教員が講義します。 課題レポートの詳細は開講後，お知らせします。				
成績評価の 方法	試験（70%），発表（10%），授業態度（20%） 以上を総合的に評価します。				
教科書	永田治樹編著『図書館経営論』日本図書館協会，2011.（JLA 図書館情報学テキストシリーズII 2）¥1200（税別）.				
参考文献	塩見昇・山口源治郎編著『新図書館法と現代の図書館』日本図書館協会，2009.				

授業科目	図書館サービス概論		単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>図書館の提供するサービスは、時代・社会の変化に伴って変化を続けています。サービスの全体像とそれぞれのサービスの基礎を講じます。加えて、現在提供されているサービスがなぜ提供されるようになったのかという背景解説、提供されなくなったサービスについての経緯説明、今後提供が期待されるサービスについての検討を行います。変化していく図書館サービスについて、一時代・一地域の狭い視点に縛られず、幅広く捉えることを求めます。サービスの提案だけでなく、維持、改善という持続可能性を理解することを目標とします。</p>					
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係				
	第2週	図書館サービスの外観				
	第3週	現代の図書館サービス				
	第4週	図書館サービスの変遷				
	第5週	図書館サービスの種類1：資料の提供				
	第6週	図書館サービスの種類2：情報の提供				
	第7週	図書館サービスの種類3：人材・場所の提供				
	第8週	図書館サービスの種類4：図書館ネットワーク				
	第9週	図書館サービスの種類5：特定利用者層向け1				
	第10週	図書館サービスの種類6：特定利用者層向け2				
	第11週	図書館サービスと法				
	第12週	図書館サービスと社会				
	第13週	図書館サービスと図書館員				
	第14週	図書館サービスでない情報サービス				
	第15週	図書館サービスの今後とまとめ、試験				
指導方法 履修上の 注意	図書館以外の公共施設が提供しているサービスを改めて意識することが望ましい。					
成績評価の 方法	筆記試験（100%）					
教科書	なし。適宜資料を配布する。					
参考文献	『図書館サービス概論』（小田光宏編著、日本図書館協会、2013年刊行予定） 『図書館経営論』（永田治樹編著、日本図書館協会、2011年） 『ロジスティクス入門（第2版）』（中田信哉、日本経済新聞出版社、2012年）					

授業科目	情報サービス論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>情報サービスは図書館サービスの一種で、専門職としての図書館員の核となる技能や知識を扱います。サービスそのものだけでなく、情報についての考え方、人間の情報への関わり方といった周辺への解説も行います。</p> <p>情報サービスを提供するために必要な知識を獲得し、実践に役立てます。サービスの提供だけでなく、サービスの利用を拡大するための知識についても学びます。「情報サービス演習」を履修する前提です。演習において技能の習得を遅滞なく行えるだけの理解を最低限の目標とします。</p>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	情報社会と図書館			
	第3週	図書館における情報サービス			
	第4週	情報行動1			
	第5週	情報行動2			
	第6週	情報行動と情報サービス			
	第7週	情報サービスの情報源			
	第8週	情報検索1			
	第9週	情報検索2			
	第10週	レファレンスサービス1			
	第11週	レファレンスサービス2			
	第12週	レファレンスサービス3			
	第13週	発信型情報サービス			
	第14週	利用教育			
	第15週	情報サービスの今後とまとめ、試験			
指導方法 履修上の 注意	「情報サービス演習」の履修には本科目の単位習得が必要です。				
成績評価の 方法	筆記試験（100%）				
教科書	『情報サービス論』（小田光宏編著、日本図書館協会、2012年）				
参考文献	『検索エンジンはなぜ見つけるのか』（森大二郎著、日経BP、2011年）				

授業科目	児童サービス論	単位数	2	担当教員	西巻悦子
講義のねらいと概要	<p>児童サービスの目的は子どもと人類の文化遺産の最も良いものである本とを結ぶことです。公共図書館の児童サービスと児童図書館の活動を中心に講義を進め、読者である子どもに提供する児童資料への理解を深めることと、子どもと本を結びつける技術を習得することを目指します。前半は児童サービスの前提である児童資料について述べ、後半は子どもと本を結ぶサービスの一つである「ストーリーテリング」を授業の中で実際に行うことを課題とし、各自の発表を組み込んで授業を進めます。</p>				
授業計画	第1週	児童サービスとは：児童サービスの定義・意義・児童図書館の専門性等			
	第2週	児童資料の種類と特性：個別資料論			
	第3週	児童コレクションの形成と管理			
	第4週	児童資料：昔話、伝承文学、わらべ歌、創作児童文学、ノンフィクション、知識の本、他			
	第5週	児童図書館の資料：(演習) レビュースリップ作成とブックリスト			
	第6週	児童図書館の歴史：東京子ども図書館と国際子ども図書館			
	第7週	児童サービスの実践：フロアワーク・レファレンスサービス・読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトーク等			
	第8週	児童サービス演習：ストーリーテリング (おはなしを語る) 作品選び (「お話のろうそく」から) とアレンジ			
	第9週	児童サービス演習：ストーリーテリング 演習：昔話、伝承文学、わらべ歌			
	第10週	児童サービス演習：ストーリーテリング 演習：翻訳もの、創作話			
	第11週	児童サービス演習：ストーリーテリング 演習：ノンフィクション、知識の本、その他			
	第12週	児童サービス演習：ブックトーク ビデオ視聴とディスカッション			
	第13週	児童サービスと図書館運営：ビデオ視聴 ヤングアダルトサービス			
	第14週	児童文学講座 国立国際子ども図書館の研究成果に学ぶ			
	第15週	前半：まとめ (児童サービスの評価と諸課題) 後半：試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>主に教員が講義を行い、演習で体験してもらいます。 演習の詳細は開講後にお知らせします。</p>				
成績評価の 方法	<p>試験 (50%)、演習 (40%)、授業態度 (10%) 以上を総合的に評価します。</p>				
教科書	<p>堀川照代編著『児童サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズII-11) 日本図書館協会、2011、¥1200 (税別) .</p>				
参考文献	<p>赤星隆子、荒井督子編著『児童図書館サービス論』新訂版、理想社、2009。 佐藤涼子編『児童サービス論』改訂版、教育史料出版会、2011。</p>				

授業科目	情報サービス演習		単位数	2	担当教員	小山守恵
講義のねらいと概要	<p>図書館の持つ情報資源を把握し、利用者に適切な回答を提供するための基礎知識と技術（資料知識、レファレンスインタビュー、回答方法など）を習得する。</p> <p>情報入手のための情報源や検索用語の選定など、情報検索のスキルを演習により習得する。</p>					
授業計画	第1週	ガイダンス、レファレンスサービスの意義	第16週	検索演習 1-1		
	第2週	レファレンスコレクションの整備	第17週	検索演習 1-2		
	第3週	利用者とのコミュニケーション	第18週	検索演習 1-3		
	第4週	資料の調べ方1	第19週	検索演習 1-4		
	第5週	資料の調べ方2	第20週	検索演習 1-5		
	第6週	資料の調べ方3	第21週	検索演習 1-6		
	第7週	レファレンスブック 1	第22週	検索演習 1-7		
	第8週	レファレンスブック 2	第23週	検索演習 1-8		
	第9週	レファレンスブック 3	第24週	情報検索システム		
	第10週	レファレンスブック 4	第25週	検索演習 2-1		
	第11週	レファレンスブック 5	第26週	検索演習 2-2		
	第12週	質問類型別の特徴	第27週	検索演習 2-3		
	第13週	レファレンスツール 1	第28週	発信型情報サービス パスファインダー1		
	第14週	レファレンスツール 2	第29週	発信型情報サービス パスファインダー2		
	第15週	レファレンスツール 3	第30週	まとめ (情報サービスの評価)		
指導方法 履修上の 注意	<p>授業は多数の参考図書と PC を使用する。</p> <p>レファレンス検索事象ごとの解説と演習を行う。</p> <p>演習問題ごとに検索結果の記録をレポートとして作成し発表する。</p> <p>全体の流れにより多少の変更あり。</p>					
成績評価の方法	レポート（40%）、課題（30%）、授業態度（30%）					
教科書	授業関連資料を配布する。					
参考文献	授業時に提示する。					

授業科目	図書館情報資源概論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>現代の図書館には、古くから蓄積されている図書・雑誌の他にも、様々な形態の情報資源が多数存在しています。また、図書館以外に存在する情報資源もサービスのために利用されます。これらの生産、流通、収集、整理、公開、保存について総合的に概説します。現代社会の図書館に関わる情報資源について、その特性の理解を深め、適切な提供と利用のかたちについて知識を獲得することが目標になります。</p>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	情報資源と図書館			
	第3週	情報資源の種類1：図書			
	第4週	情報資源の種類2：継続資料1			
	第5週	情報資源の種類3：継続資料2			
	第6週	情報資源の種類4：電子資料とネットワーク情報資源			
	第7週	情報資源の種類5：視聴覚資料			
	第8週	情報資源の種類6：その他			
	第9週	情報資源の流通1：紙媒体の流通			
	第10週	情報資源の流通2：電子媒体の流通			
	第11週	情報資源の収集			
	第12週	情報資源の公開			
	第13週	情報資源の保存			
	第14週	情報資源の権利			
	第15週	まとめと試験			
指導方法履修上の注意	図書館にある本・雑誌以外の資料についても日常的に意識しておくことが望ましいです。				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				
教科書	無し。資料を適宜配布します。				
参考文献	『図書館情報資源概論』（馬場俊明編著、日本図書館協会、2012年）、『古本通：市場・探索・蔵書の魅力』（樽見博著、平凡社、2006年）、『学術情報流通と大学図書館』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2008年）				

授業科目	情報資源組織論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>図書館に蓄積される様々な情報資源は、組織化（≒整理）されることで初めて効果的・効率的に利用者へと提供することができます。図書館における組織化の意義・理論・技術について、歴史的経緯を踏まえつつ概説します。さらに図書館以外での情報資源の組織化についても取り上げます。組織化の目的・意義を理解し、技術の基礎となる知識を獲得することを目標とします。</p>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	情報資源組織化の目的・意義			
	第3週	組織化の理論			
	第4週	組織化の対象			
	第5週	組織化の規則			
	第6週	組織化の技術1：記述1			
	第7週	組織化の技術2：記述2			
	第8週	組織化の技術3：記述3			
	第9週	組織化の技術4：索引			
	第10週	組織化の技術5：主題1			
	第11週	組織化の技術6：主題2			
	第12週	組織化の技術7：主題3			
	第13週	類縁機関の組織化			
	第14週	組織化の新しい潮流			
	第15週	まとめと試験			
指導方法 履修上の 注意	「情報資源組織演習」の履修にはこの科目の単位習得が必要です。				
成績評価の 方法	筆記試験（100%）				
教科書	無し。資料を適宜配布します。				
参考文献	『情報資源組織論』（柴田正美著、日本図書館協会、2012年）、『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ）』（田窪直規編、樹村房、2011年）、『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012年）				

授業科目	情報資源組織演習		単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>「情報資源組織概論」で学んだことを元に、様々な環境での組織化の仕組みを確認しながら、実際の情報資源を用いて演習を行います。コンピュータを用いた組織化が当たり前になったことで生じた課題についても対応します。組織化のための規則は、その効率化と効果を高めるために絶えることなく変更されていくので、特定の環境によらず、多種多様な情報資源を正確に記述・分類できる技術を獲得することが目標になります。</p>					
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関わり	第16週	コンピュータでの目録作成1：オリジナル1		
	第2週	目録規則の解説と実習1：図書の記述1	第17週	コンピュータでの目録作成2：オリジナル2		
	第3週	目録規則の解説と実習2：図書の記述2	第18週	コンピュータでの目録作成3：コピー1		
	第4週	目録規則の解説と実習3：図書の記述3	第19週	コンピュータでの目録作成4：コピー2		
	第5週	目録規則の解説と実習4：継続資料の記述1	第20週	目録の品質管理1：典拠		
	第6週	目録規則の解説と実習5：継続資料の記述2	第21週	目録の品質管理2：評価・修正1		
	第7週	目録規則の解説と実習6：継続資料の記述3	第22週	目録の品質管理3：評価・修正2		
	第8週	目録規則の解説と実習7：その他資料の記述	第23週	メタデータの設計と作成1：メタデータの設計1		
	第9週	件名の解説と実習1	第24週	メタデータの設計と作成2：メタデータの設計2		
	第10週	件名の解説と実習2	第25週	メタデータの設計と作成3：メタデータの作成1		
	第11週	件名の解説と実習3	第26週	メタデータの設計と作成4：メタデータの作成2		
	第12週	分類の解説と実習1	第27週	メタデータの設計と作成5：メタデータのマッピング		
	第13週	分類の解説と実習2	第28週	メタデータの設計と作成6：メタデータの関連付け		
	第14週	分類の解説と実習3	第29週	メタデータの管理と公開		
	第15週	記述、件名、分類のまとめ	第30週	まとめと最終成果物の講評		
指導方法 履修上の 注意	<p>教科書は2013年度刊行予定です。刊行され次第使用します。教科書以外に『日本目録規則1987年版改訂3版』『日本十進分類法新訂9版』『日本十進分類法新訂10版試案』『基本件名標目表第4版』『Web NDL Authorities』『NACSIS-CAT マニュアル』を利用します。目録作成ではコンピューターも利用します。文字入力やマウス操作といった基本的操作には予めある程度慣れておいて下さい。</p>					
成績評価の 方法	課題（50%）、実技（50%）					
教科書	『情報資源組織演習』（和中幹雄・山中秀夫編著、日本図書館協会、2013年刊行予定）					
参考文献	『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012年）					

授業科目	図書館基礎特論	単位数	1	担当教員	宮内淳平
講義のねらいと概要	<p>図書館をめぐる近年の動向や諸課題についてテーマを取り上げ、幅広く図書館サービスについて考える。その際、具体的各種サービスについて他の図書館も含め実際図書館等を見学し、広く知識を収集し、また、その内容を比較検討し学習することをねらいとする。</p> <p>また、利用者対象別の各種図書館・専門図書館サービスの特質について考えてみる。</p>				
授業計画	第1週	図書館と社会の関係について			
	第2週	漢籍及び古典資料について			
	第3週	漢籍の分類について（中国の場合）			
	第4週	漢籍の分類について（日本の場合）			
	第5週	情報検索（1）四角號碼索引とは			
	第6週	情報検索（2）四角號碼索引の実際			
	第7週	図書館システム（公立図書館・大学図書館）と図書館の施設			
	第8週	図書館システム（専門図書館と大学図書館）と図書館の施設			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法履修上の注意	<p>近隣の公共図書館・専門図書館を訪ね図書館調査を行い比較検討し、レポート作成の予定。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート（20%）、課題（50%）、授業態度（30%）</p>				
教科書	<p>使用しない。適宜プリント配布予定。</p>				
参考文献					

授業科目	図書館サービス特論	単位数	1	担当教員	小山守恵
講義のねらいと概要	<p>図書館の諸問題について取り上げ、幅広く図書館サービスをについて考える。 図書館サービスの現状を解説。さらに、図書館見学等を行い各種図書館における情報サービスの特質を学習する。比較検討により情報サービスの理解を深める。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス			
	第2週	事例研究1 国会図書館・国際子ども図書館／資料の組織化			
	第3週	図書館見学1 (市立図書館＝見学先未定)／レポート発表			
	第4週	レファレンスツール1 書誌情報／事例研究2 学校図書館			
	第5週	レファレンスツール2 調べ案内／見学2 (見学先未定)			
	第6週	レポート発表／レファレンスツール3 情報ファイル			
	第7週	事例研究3 新しい図書館像／レファレンスツール4 組織化			
	第8週	これからの図書館／まとめ			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>館種別事例研究に、事例解説と公共図書館等の視察、レポート作成・発表の予定。 情報サービスの理解を深めるため演習を行う。 授業時に関係資料を配布し参考文献を指示する。 全体の流れにより多少の変更あり。 自主的に多くの図書館を見学して、図書館サービスの様子を調査すること。</p>				
成績評価の 方法	レポート(30%)、課題(40%)、授業態度(30%)				
教科書	授業関連資料を配布する。				
参考文献	授業時に提示する。				

授業科目	図書館情報資源特論	単位数	1	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>図書館における専門資料について講じます。専門資料とは、広義には何らかの専門家が利用する資料、狭義には学術情報を指し、広く一般に流通して利用される資料とは、異なった性質を持ちます。図書館を通じて専門資料を利用する、または提供することの現状と課題について概説します。学術分野ごとの主要な専門資料と、それを探索したり利用したりするための方法・ツールについて学びます。分野（人文科学、社会科学、自然科学）によって異なる学術情報の特徴と流通について理解を深め、知識を獲得することが目標になります。</p>				
授業計画	第1週	学術情報の概要			
	第2週	学術情報のメディア			
	第3週	学術情報の流通			
	第4週	学術情報の特徴：人文科学			
	第5週	学術情報の特徴：社会科学			
	第6週	学術情報の特徴：自然科学			
	第7週	学術情報の特徴：その他複合科学			
	第8週	まとめと試験			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>国立情報学研究所と国立国会図書館がネット上で提供しているサービス（CiNii, 国立国会図書館サーチ）を実際に利用しておくことが望ましいです。</p>				
成績評価の 方法	<p>筆記試験（100%）</p>				
教科書	<p>無し。資料を適宜配布します。</p>				
参考文献	<p>『専門資料論 新訂版』（三浦逸雄編、日本図書館協会、2010年）、『科学技術コミュニケーション入門:科学・技術の現場と社会をつなぐ』（梶雅範ほか編、培風館、2009年）</p>				

授業科目	図書・図書館史	単位数	1	担当教員	西巻悦子
講義のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> ・図書や図書館はどのように誕生しどのような経緯で今のような形態に行き着いたのか、社会的・科学的背景を考えながら、図書と図書館の歴史的な変遷を知ることがをねらいとする。 ・図書をはじめとするメディアの形態、種類並びに流通の視点から、世界と日本における図書館の発展を解説する。 				
授業計画	第1週	記録メディアの歴史：紙以前の記録メディアから現代まで			
	第2週	世界の図書館の歴史：古代・中世の図書館			
	第3週	世界の図書館の歴史：近世・近代の図書館			
	第4週	世界の図書館の歴史：20世紀の図書館			
	第5週	日本の図書館の歴史：古代・中世の図書館			
	第6週	日本の図書館の歴史：近代図書館の誕生			
	第7週	日本の図書館の歴史：戦後改革と図書館			
	第8週	現代の図書館事情：日本・アメリカ・カナダ・北欧の図書館			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>主に教員が講義します。</p> <p>課題レポートの詳細は開講後、お知らせします。</p>				
成績評価の 方法	<p>レポート（80%）、授業態度（20%）</p> <p>以上を総合的に評価します。</p>				
教科書	小黒浩司編著『図書及び図書館史』日本図書館協会、2010。（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 1 2）, ¥1200（税別）				
参考文献	寺田光孝編集『図書及び図書館史』樹村房,1999.				